

しんらんさまミュージカル

新・得度編



♪ 《BGM「日野の里」》

(ナレーション①)

1173年、親鸞さまは京都の日野の里にお生まれになり、松若丸と名付けられました。親鸞さまが幼いとき、お父さまは平家との争いに巻き込まれて家を出られ、お母さまも病気で亡くなってしまいました。そのため、伯父の^{ひののりつな}日野範綱さまの屋敷に引き取られ、学問や歌の勉強をしておられました。

【場面1】 日野の里

《登場人物： 松若丸・世話係・里の人①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧》

- ・松若丸：みなさん、こんにちは。
- ・里人①：あっ、松若丸さま。
- ・里人全員：松若丸さま、こんにちは。
- ・里人②：松若丸さま、お出かけですか。
- ・世話係：暖かくなって来たので、桜の様子を見に来ました。
- ・里人③：まだ、つぼみだからもう少し先でしょうか。
- ・里人④：いつもなら、そろそろ咲き始める頃ですが…。
- ・世話係：今年は、いつもより遅いのでしょうか。
- ・里人⑤：桜が咲いたら、今年もみんな花見をしましょう。
- ・里人⑥：そうしたいけど、今年は持ってくる食べ物がありません。
- ・里人⑦：日照りや大風のせいで、毎日の食べ物さえなくて困っています。
- ・里人⑧：ほんとに…。でも、やっぱり花見にはいきたいよなあ。

♪ 《BGM「地震」》

- ・里人①：あれ…!? 地面が揺れてる!
- ・里人②：地震だ〜!
- ・全員：わあ〜! 助けて〜!

♪ 《挿入歌「地震の後」》

みんな、大丈夫? とっても揺れたけど…
ホントに怖かった!
震えが止まらない!
都のあちこちで黒い煙が!
きっと、今の地震で家が燃えているんだよ!
なんて、かわいそうな…。
食べる物さえ なかなかないのに
家まで燃えるなんて…。

【場面2】 日野（範綱）家の屋敷 ♪ 《BGM「日野家」》

《登場人物： 範綱・ 範綱の妻・松若丸・世話係》

- ・範綱：松若丸、今日は「古今和歌集」を勉強しましょう。
- ・松若丸：はい、おじさま。よろしくお願いします。
- ・範綱：今日は、^{ありわらの あ そんな}在原朝臣の詠まれた歌です。

♪ 《挿入歌「和歌A」》

世の中に たえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし》

♪ 《BGM「学問」》

- ・範綱：松若丸、この歌の意味がわかるかな。
- ・松若丸：はい。
- 「もし世の中に桜がなかったならば、春はもっと落ち着いた心で過ごせるだろう」という意味だと思います。
- ・範綱：よくできました。
- ・**範綱の妻**：松若丸、日頃からよく勉強していますね。
- ・**世話係**：松若丸さまは、本当に賢いお方です。
- ・範綱：では、松若丸。
なぜ世の中に桜があると、心が落ち着かないのだろうか。
- ・松若丸：春になると、桜がいつ咲くかと気になるからでしょうか。
- ・範綱：その通り。でも、まだ他にも理由があります。
よく考えておきなさい。
- ・松若丸：はい。分かりました。

（ナレーション②）

この頃、都の東山粟田口にある青蓮院の住職は、右大臣九条兼実さまの弟、慈円さまがおつとめでした。

【場面3】 青蓮院 ♪ 《BGM「都の人々の様子」》

《登場人物： 慈円・僧侶①・僧侶②・僧侶③・僧侶④・**使者①・②・③**》

- ・僧侶①：慈円さま。右大臣さまからお使いの人たちが来ておられます。
- ・慈円：右大臣さまのお使い…。すぐにお通ししなさい。
- ・僧侶②：はい、わかりました。
（少し、間を置いて…）
- ・僧侶③：慈円さま、お連れしました。
- ・僧侶④：みなさま、こちらへ。
（使者①が前に、使者②・使者③はその後ろに横に並んで座る）
- ・**使者①**：慈円さま、右大臣さまからのお手紙です。

- ・僧侶①: (使者①から手紙を受け取り) お預かりします。
(慈円に手紙を渡しながら) 慈円さま、どうぞ。
- ・慈円: (手紙を読みながら) 都は大変なことになっていますね。
- ・使者②: はい。昨年、雨が少なかったので、あまり作物ができませんでした。
- ・使者③: そのため、多くの人が飢えに苦しんでいます。
- ・僧侶②: 飢えて、たくさんの方が亡くなっているとか…。
- ・僧侶③: 道ばたや川のほとりで亡くなっている人もいると聞いています。
- ・使者①: はい。そのあまりの多さに驚くばかりです。
- ・使者②: 作物ができないので、土地を離れた人もいます。
- ・僧侶③: それでは、ますます飢える人が増えますね。
- ・慈円: 右大臣さまも大変心を痛めておられることでしょう。
- ・使者③: はい…。それで慈円さまに世の中が安らかになるよう、
み仏にお願いしてほしいと。
- ・慈円: わかりました。右大臣さまには、世の乱れが鎮まるよう熾盛光如来しじょうこうによらいさまに
お参りいたしますと伝えてください。
- ・使者①: はい。そのようにお伝えします。
- ・使者②: 慈円さま、よろしく願いいたします。
- ・使者③: 如来さまがお救いくださいますように…。

(ナレーション③)

このときの大飢饉は、都を含む西日本一帯に及び、多くの人が飢えて亡くなっただけでなく、土地を放棄する農民が多数発生したため地域社会が崩壊し、混乱は全国的に波及しました。

【場面 4】 日野の里 《BGM「日野の里Ⅱ」》

《登場人物 : 松若丸・世話係・里の人①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧》

- ・世話係: みなさま、おそろいですね。
- ・里人①: あ、松若丸さま。
- ・松若丸: みなさん、こんにちは。
- ・里人全員: 松若丸さま、こんにちは。
- ・里人②: やっと、桜が咲き始めました。
- ・里人⑤: まだ、ほんの少しですけど。
- ・里人③: いつ、みんなで花見をしようか。
- ・里人④: あと七日もたてば、一番きれいなころかな。

- ・里人⑥:でも、その前に雨が降ったりしないかな?
- ・里人⑦:それとも、強い風が吹いて散ったりしないかな?
- ・里人⑧:それだけは、何とも分らないからなあ。
- ・全員:はあ〜。春に桜がなかったら、こんなに悩まないのに…。
- ・松若丸:

♪ 《挿入歌「和歌の意味」》

花の咲く日が いつになるのか
 ずっと ずっと 気になっていた
 花が 咲いたら 今度は雨が風が
 花を散らしてしまうと
 あ〜春は 桜に悩まされる

【場面 5】 日野(範綱)家の屋敷 BGM「日野家」♪

《登場人物 : 範綱・ 範綱の妻・松若丸・世話係 》

- ・範綱:松若丸、今日も「古今和歌集」を勉強しましょう。
- ・松若丸:はい、おじさま。よろしくお願いします。
- ・範綱:今日は、紀友則^{きのともり}さまの詠まれた歌です。

♪ 《挿入歌「和歌B」》

《ひさかたのひかりのどけき春の日に しづ心なく花の散るらむ》

♪ 《BGM「得度の決意」》

- ・範綱:松若丸、この歌の意味がわかるかな。
- ・松若丸:はい。
- 「暖かくなってきた春の日なのに、桜の花だけすぐに散るのはどうしてだろう」という意味だと思います。
- ・範綱:桜は、いつまでも見ていたいのに、あっという間に散ってしまう。
- ・範綱の妻:本当に、もっと落ち着いて咲き続けていてほしいのに。
- ・世話係:咲いたと思ったら、すぐに散ってしまいますものね。
- ・範綱:その通り。もっと人々の心を楽しませてくれれば良いのに…。
- ・松若丸:ところで、おじさま。実は、お願いがございます。
- ・範綱:急に…、どうしたのかな。

- ・松若丸:私をお坊さんにしてください。
- ・世話係:ええっ!
- ・範綱の妻:どうして、そのようなことを。
- ・松若丸:世の中の人々は、みんなとても苦しんでいます。
み仏の教えを学び、それを伝え、誰もがしがわさに暮らせるようにしたいのです。
- ・範綱の妻:まだ幼いのに…、松若丸はそのようなことを考えていたのですか。
- ・世話係:松若丸さまは、里の人びとが苦しんでいる様子を見て、いつも心を痛めておられました。
- ・範綱:よし、わかった。では、青蓮院しょうれんいんの慈円じえんさまにお願いしましょう。
- ・松若丸:ありがとうございます。

(ナレーション④)

親鸞さまが、お坊さんになるため青蓮院に行かれたのは9歳のとき。
桜の花が美しく咲く、ある春の日の夕方のことでした。

【場面 6】 青蓮院 《BGM青蓮院》

《登場人物： 範綱・松若丸・慈円・僧侶①・僧侶②・僧侶③・僧侶④》

- ・範綱:慈円さま、こちらが松若丸です。
- ・松若丸:慈円さま、松若丸です。
- ・慈円:範綱どの。

松若丸どののは、まだ幼いが、厳しい修行や学問に耐えていけますか。

- ・松若丸:はい、覚悟はできています、慈円さま。
- ・慈円:分かりました。

ただ、今日はもう陽も暮れたので、式は明日の朝、行うことにしましょう。

- ・松若丸:ええっ!
- ・慈円:明日ではだめかな、松若丸どの。

・松若丸: 《挿入歌「和歌C」》

明日ありと思う心のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬものかは》

《BGM得度式》

- ・慈円:(膝を叩いて) なるほど、その通りですね。
- ・僧侶①:確かに。

- ・僧侶②:明日花見に行こうと思っても、
夜の間に嵐が吹いて桜は散ってしまうかもしれません。
- ・僧侶③:私たちの命も、桜と同じように、明日のことは分からないものです。
- ・僧侶④:たしかに。年齢に関係なく、一日一日の大切さは誰もが同じです。
- ・慈円:松若丸どの、よく分かりました。では、すぐに式をはじめることしましょう。
全員、準備を始めるように。

- ・僧侶①・僧侶②・僧侶③・僧侶④:はい、慈円さま。
- ・範綱:慈円さま、ご無理を言ってすみません。
- ・慈円:いやいや、範綱どの。私の方こそ松若丸どのに教えられました。
- ・僧侶①:慈円さま。
- ・僧侶②③④:準備ができました。

(慈円 松若丸の後ろに立つ)

- ・慈円:では、松若丸どの。手を合わせて、私の言う言葉を繰り返しなさい。
- ・松若丸:はい、慈円さま。
- ・慈円:南無帰依仏
- ・松若丸:南無帰依仏
- ・慈円:南無帰依法
- ・松若丸:南無帰依法
- ・慈円:南無帰依僧
- ・松若丸:南無帰依僧
- ・慈円:松若丸どの、これから先は、名を「範宴^{はんねん}」と名のりなさい。
- ・松若丸:「範宴^{はんねん}」ですね。
- ・慈円:しっかりと、学問・修行に励みなさい。
- ・松若丸:慈円さま、ありがとうございます。

これから、み仏の教えを学び、修行に励みます。

- ・範綱:松若丸…、いや範宴。これから、しっかりと勉強してください。
- ・松若丸:はい。分かりました。

(ナレーション⑤)

こうして親鸞さまは、9歳の春、新たな希望を胸に、お坊さんとしての第一歩を踏み出されました。

♪ 《挿入歌「明日への希望」》 全員で歌う

いつもいつも あこがれていた
大好きなんだ あなたのことが
どんなときも あきらめないで
信じた道を 歩いてたね
思い通りに ならないことを
誰かのせいに することもなく
明日への希望 胸に灯して
新しい世界 踏み出していく
あなたが好き

君は決して 独りじゃないと
教えてくれた あなたのことを
いつのときも 忘れはしない
生きる勇気を もらえたんだ
星も見えない 暗い夜でも
必ず朝の 光は射すと
明日への希望 胸に抱きしめ
歩き続けてく あなたの背中
追いかけるよ